

1. 科目名（単位数）	児童・家庭福祉論（2単位）	3. 科目番号	SJMP1101 SSMP2102 SCMP2302
2. 授業担当教員	上田 征三		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーション、学外調査	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	1年生以上		
7. 講義概要	急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動など、基本的なことを体系的に学習する。特に、子ども家庭福祉にかかわる施策分野については、グループでの学習を重視する。また、学外での調査も取り入れ、学生が教室内だけの理解から、地域や社会と関係した視点から問題が把握できるように援助する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。 授業の進め方は、講義を基にグループでのディスカッション、演習等を多く取り入れたものにする。		
8. 学習目標	・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性を理解する。 ・子ども家庭の福祉の原理・理念・権利保障について理解する。 ・児童福祉の歴史について理解を深める。 ・子ども家庭の福祉にかかわる法制度及び具体的施策について理解する。 ・子ども家庭への相談・援助活動、地域援助活動等について理解を深める。 現在の日本における児童・家庭福祉の課題について理解を深めるとともに、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。		
9. アサインメント（宿題）及びレポート課題	1. 授業内容に沿った小テストを5回実施（到達度評価）。 2. 到達度に至るまで小テストを実施し、未達成者にはレポート（手書き）を課す。 3. 教科書、小テストや配付プリントが閉じられるようなノート兼用のバインダーを必ず準備。 4. 予習時、授業時、復習時でアンダーラインを引き書き込みをするペンの色を使い分ける事を勧める。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉』 中央法規出版、2021 年。 【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房。 東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 児童家庭福祉の全体像を、講義やグループ討議、レポート作成を通して理解し、説明ができるようになる。 2. グループ活動を通じて、思考力を高め、問題発見・問題解決力などの能力を培う。 ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への積極的参加（ディスカッション・発表） 総合点の30％ 2 日常の学習状況（小テスト・小レポート・学外調査） 総合点の30％ 3 課題レポート 総合点の40％		
12. 受講生へのメッセージ	1. 授業中に携帯、私語、居眠り、飲食などをしないこと。 2. 教室を散らかしたり机を汚したりしないこと。 3. マナーを守り、大学生としての学習体制を確立すること。		
13. オフィスアワー	授業以外の時間（予約をお願いすることもある）		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション、第1章 子ども家庭福祉とは何か	事前学習	児童・家庭福祉論講義用のノートと資料を綴じるファイル、シラバスを持参する。事前に講義概要、シラバスについて目を通しておく。
		事後学習	児童・家庭福祉論の授業についてオリエンテーションの内容をノートにまとめ、配布された資料をファイルに綴じる。教科書の第1章「子ども家庭福祉とは何か」を事前に読んで理解をしておくこと。
第2回	第2章 子ども家庭福祉の歴史	事前学習	教科書の第2章「現代社会と子ども家庭」を事前に読んで理解をしておくこと。
		事後学習	講義の要旨をレジュメに沿ってノートにまとめる。身近に生活する子どもを観察する。
第3回	第3章 子ども家庭を取り巻く現代社会	事前学習	第3章の「子ども家庭を取り巻く現代社会」について教科書を読み理解を深めておくこと。
		事後学習	講義の要旨をレジュメに沿ってノートにまとめる。子どもの権利について自分の生活に当てはめて考えてみる。

第 4 回	第 4 章 子ども家庭福祉の支援の基盤①	事前学習	第 4 章の「子ども家庭福祉の支援の基盤」(第 1 節から 3 節、p37-46) について教科書及びレジュメを事前に読んでおくこと。グループで事前に児童福祉関連の法律を調べておく。
		事後学習	講義内容、配布した資料をノートにまとめる。実際に児童福祉法を手にとってみる。
第 5 回	第 4 章 子ども家庭福祉の支援の基盤②	事前学習	第 4 章の「子ども家庭福祉の支援の基盤」(第 4 節から 6 節、p47-86) について調べておくこと。
		事後学習	講義内容、グループで討議した内容をノートにまとめる。児童福祉に関する行政機関を調べてみる。
第 6 回	第 5 章 子どもの福祉課題と支援①	事前学習	第 5 章の「子どもの福祉課題と支援」(第 1 節から 3 節、p87-106) について教科書及びレジュメを事前に読んでおくこと。
		事後学習	グループ及び全体で討論した内容をノートにまとめる。また、図解して整理しておく。
第 7 回	第 5 章 子どもの福祉課題と支援②	事前学習	第 5 章の「子どもの福祉課題と支援」(第 3 節から 6 節、p107-135) について教科書及びレジュメを事前に読んでおくこと。
		事後学習	グループの発表について自分の見解を添えてまとめておく。保健所・保健センターを訪ねてみる。
第 8 回	第 5 章 子どもの福祉課題と支援③	事前学習	第 5 章の「子どもの福祉課題と支援」(第 7 節から 9 節、p138-160) について教科書及びレジュメを事前に読んでおくこと。
		事後学習	グループの発表について自分の見解を添えてまとめておく。児童館を訪ねてみる。
第 9 回	第 5 章 子どもの福祉課題と支援④	事前学習	第 5 章の「子どもの福祉課題のソーシャルワーク実践」(第 1 0 節から 1 2 節、p161-192) について教科書及びレジュメを事前に読んでおくこと。
		事後学習	グループの発表について自分の見解を添えてまとめておく。伊勢崎市の保育所を調べてみる。
第 1 0 回	第 6 章 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践①	事前学習	第 6 章の「子どもの家庭福祉のソーシャルワーク実践」(序節から 2 節、p193-205) について教科書及びレジュメを事前に読んでおくこと。
		事後学習	グループの発表について自分の見解を添えてまとめておく。ひとり親家庭等について学友と話し合ってみる。
第 1 1 回	第 6 章 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践②	事前学習	第 6 章の「子どもの家庭福祉のソーシャルワーク実践」(第 3 節から 6 節、p206-221) について教科書及びレジュメを事前に読んでおくこと。
		事後学習	グループの発表について自分の見解を添えてまとめておく。伊勢崎市の児童虐待について調べてみる。
第 1 2 回	第 6 章 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践③	事前学習	第 6 章の「子どもの家庭福祉のソーシャルワーク実践」(第 7 節から 9 節、p222-233) について教科書及びレジュメを事前に読んでおくこと。
		事後学習	グループの発表について自分の見解を添えてまとめておく。戦後の女性福祉の歴史を振り返る。
第 1 3 回	第 6 章 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践④	事前学習	第 6 章の「子どもの家庭福祉のソーシャルワーク実践」(第 1 0 節から 1 1 節、p234-241) について教科書及びレジュメを事前に読んでおくこと。
		事後学習	講義の要旨をレジュメに沿ってノートにまとめる。ソーシャルワーク理論から相談援助活動を考える。
第 1 4 回	第 6 章 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践⑤	事前学習	第 6 章の「子どもの家庭福祉のソーシャルワーク実践」(第 1 0 節から 1 1 節) について教科書及びレジュメを事前に読んでおくこと。

		事後学習	現場等からの声（事例資料等）を聞き、ノートにその要旨をまとめる。翌週に感想文を提出すること。
第 1 5 回	第 6 章 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践⑥、まとめ	事前学習	第 6 章の「子どもの家庭福祉のソーシャルワーク実践」（第 1 2 節から 1 5 節、p242－257）について教科書及びレジュメを事前に読んでおくこと。これまで学習してきたことを振り返り、最後のまとめの討議に備える。
		事後学習	講義内容、発表内容を整理して、ノートにまとめ、資料はファイリングしておく。今後、社会福祉士国家試験に向けた学習資料として活用する。
期末試験			